

プログラム期間:
2019年3月6日～2019年4月30日

コースの目的:
TASTE ミッション・ジャパンはOMの長期ミニストリー(海外&国外)に関心のある方々に、実践的な学びと訓練の場を提供し、長期宣教がどのようなものかを体験し、将来の働きへ備えるプログラムです。

海外と日本の両方から参加者を募り、様々な国の人達と共同生活の中で生まれる交わりや挑戦、弟子づくりに関するトレーニング。キリストの弟子として、異文化チームや地域の人々との関わり、学んだことを行動に移すミニストリーの実践。この2か月間のTASTEは、参加者一人ひとりの「主の宣教への召しの確認」へと繋がることでしょう。

TASTEとは
Train 英語の学びと弟子づくりののためのトレーニング
Apply 学んだことを様々なミニストリーの場で実践
Socialise 多国籍の参加者、地域の人々との交わり
Try 異文化の共同生活に挑戦
Explore 主からの宣教の召し/可能性を探る

概要説明
TASTE ミッション・ジャパンは宮城県での8週間の宣教プログラムです。このプログラムは、実際にOMの長期宣教の生活と奉仕がどのようなものかを体験でき、OMチームが関わる地域コミュニティーへの伝道の働きに加わることができます。このプログラムの中で、参加者は他国の参加者たちと共に、学びと訓練を受け、日本の地方伝道を経験することができます。

応募資格
参加者は海外または日本での長期宣教に興味を持っている方。異なる環境に順応する心構えと、異なる文化の人々と共に生活し、活動する意欲を持っている方。

費用: 大人 16万円
年齢: 18歳から65歳まで
募集人数: 5人から15人
言語: 主に英語。参加者は日常英会話能力が必要です。
申込み締切日: 2019年1月15日

興味のある方は詳細について、
keiko.smithdorff@om.org までお問合せ下さい。

主の宣教の働きに

Dear fellow Jesus followers,

今年もあと僅かとなりました。多くの方々はクリスマスの準備に忙しくされていることでしょう。日本においてこの時期は、イエス様がなぜこの世に来てくださったかを伝えるのに絶好の機会です。多くの人々がイエス様の救いのメッセージに触れ、応答できるようにと祈ります。

年の終わりに、今年神様が成してくださった素晴らしい業を振り返り、感謝を捧げたいと思います。福音によって変革された人生、バプテスマを受けた新しい神の家族に感謝します。日本に新しく遣わされた宣教師に感謝します。私たちOMの働きの為に捧げられた献金と、日々答えられた尊い祈りに感謝します。私たちの心は感謝で満たされていますが、今なお、私達を自由にするイエスキリストの救いのメッセージを聞いたことのない、世界に住む何百万という失われた人々のことを思う時、私は心に重たさを感じずにはられません。

2019年へ目を向ける時、私たちは、今まで以上に偉大な神様のお働きを日本、そして世界で見ることになると信じます。私たちの神様は宣教の神様であられる方です。そして真実を必要とする世界中の人々の心に触れる為に、主の宣教の働きに参加するよう招いておられます。収穫は確かに多い、しかし、働き人はごく僅かです。そこで収穫の為に働き人を育成するために、私たちは2ヶ月間の宣教トレーニングプログラム「TASTE ミッションジャパン」を来年3月から4月の間、宮城県でスタートします。(詳細は左記にて)是非このプログラムを覚えてお祈りいただければ幸いです。

今一度、皆様の尊い献金と途切れることのない力強い祈りに心から感謝します。

より多くの収穫を願いつつ
スティーブン スミスドルフ
OM日本代表
OM日本代表、妻の契子と3人の子供達、モーゼ(17)、恵真(13)、ヨハン(11)と共に宮城県在住



希望の物語

チュクチ族・シベリア

チュクチ族は、シベリア(ロシア)に住む約15,000人の少数民族であり、トナカイを飼育し、漁師をしながら生活しています。OM EAST パートナーは、アニミズム信仰を持つチュクチ族にイエスキリストの真理が届くことを願っています

さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。ヘブル人への手紙 4:14

信仰を通して、神との平和と救いの保証が得られることを知るようにと望んでいます。この希望を伝えるために、OMEASTのパートナーである現地ワーカーは2017年に、聖書の25のストーリーからなる聖書物語をチュクチ語とロシア語で出版しました。アプリを使うと、聖書物語の内容を読むことも聞くこともできます。聖書物語は、自然、病気、死、悪魔、罪の赦しに対するイエスの権威を語っています。さらに、チュクチ族は、お守りを身に着け、火や土地に生けにえをささげる儀式に従わないと、罰を受けると恐れています。」と現地のワーカーであるナタリーは説明します。

信するには2台のスノーモービルを使用する必要があります。一台が壊れても、予備のスノーモービルを使用する事ができるためです。神様が与えられた思いを果たすために仕えている現地パートナーのことを考えながら、「聖書物語を翻訳する働きは価値があり、高額な交通費を支払ってでも、過酷な天候の中で危険を冒してまでも、現地へ行ってチュクチ族の人々に素晴らしいメッセージを届けることは価値のあることです。」と、OM EASTのワーカーは言います。

「チュクチ族へ伝道する最大のチャレンジは、孤立と恐れです。遠く離れた彼らの村へ行くには、高額な交通費がかかります。また、彼らの地域へ入るには公式な許可が必要になります。さらに、チュクチ族は、お守りを身に着け、火や土地に生けにえをささげる儀式に従わないと、罰を受けると恐れています。」と現地のワーカーであるナタリーは説明します。

この地域で活動するOM EASTのパートナーは、人の罪の代価を支払うために究極の犠牲として自分自身をささげるために地上に来てくださった、大祭司であるイエスの福音をチュクチ族に伝えていきたいと願っています。彼らはイエスがどのように罪と死に打ち勝ったかを伝えたいのです。そして、チュクチ族が、イエスに対する

チュクチ族が福音を聞くことができていることを主に讃美します。受け取った一人一人の人生に、印刷物とデジタルの聖書物語が用いられるようにお祈りください。彼らが悪い儀式を離れて、赦しと永遠の命を与える救い主として、イエスを受け入れる勇気を持つことができるように。そして、イエス様を信じた人々が、イエスにある信仰をしっかりと公言できるようお祈りください。

ナタリーの同僚であるカタリーナは、現地の人々に聖書物語を配布しています。聖書物語はロシア連邦が構成する共和国であるサハ共和国で配布するために究極の犠牲として自分自身をささげるために地上に来てくださった、大祭司であるイエスの福音をチュクチ族に伝えていきたいと願っています。彼らはイエスがどのように罪と死に打ち勝ったかを伝えたいのです。そして、チュクチ族が、イエスに対する

OMとは?

OM (Operation Mobilisation) は、世界約110カ国で3200名が活動している世界宣教団体です。OMは世界における福音伝道のために奉仕者の育成を行っています。また、特に福音が届きにくい地域に重点を置き、教会開拓や教会の働きを強化する働きも担っています。

- 宣教: キリストの大宣教命令に基づいて伝道をしています。神はごく普通の人々を大いに用いる方であることを覚え、福音を述べ伝えてます
- 人道支援: 地震や洪水で被災した人達への災害支援、また難民の方々に寄り添い、キリストの愛と憐れみを示していきます
- 教会開拓: 教会開拓では、既存の教会が少ない地域での活動、また日本の既存教会へ派遣され、「協力宣教師」として教会開拓に貢献します
- 正義: 義でおられる神に遣わされた者として、人身売買、児童労働、麻薬、組織的暴力や性的暴力のもとで不当な扱いを受けている人々に寄り添い、助けます
- 訓練・育成: 宣教地における弟子訓練を通して、技術や知識だけでなく、信仰面からも奉仕者の指導と育成を行います

OM日本・OM Japan
www.omjapan.org fb.me/omjapan info.jp@om.org
+81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX) 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394
郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM 日本事務局」

OM日本ニュース 第81号2019年 冬 発行人: スティーブンスミスドルフ 編集: 近藤健二



行こう

長期宣教
異文化の地で人々と福音を分かち合いませんか? イエス様の輝く弟子として、コミュニティで活躍しましょう。OMは、神様があなたのユニークな賜物を用いてくださる奉仕先に行くことができるよう、お手伝いをします。
海外での宣教奉仕の機会
110カ国 2年間~
詳しい情報、質問などはOM日本事務局まで。現在参加可能な奉仕先をオンラインで見ることができます。
www.om.org/search/opportunity (英語)

事務局スタッフ募集中
日本 1年間~
OM日本では宣教師の派遣と受入れに関する人事と会計、記事の翻訳、ホームページなどの働きに携わるスタッフを求めています。世界のOMに属する全員は支援者からのサポートを得て宣教師としての立場で奉仕しています。世界宣教の前線を支える事務局での働きに、ビジョンと重荷が与えられていませんか? 関心のある方はお問い合わせください。

捧げよう

OMの働きを覚えてご支援下さい。

OM日本事務局支援献金
OM日本事務局の運営と宣教師の派遣業務は、献金によって行われています。事務局のスタッフは全員、ボランティアであり、家族や友人、教会からの経済的なサポートによって活動を続けています。みなさんの献金は、事務局の運営費とサポート額が十分にないスタッフの支援金として当てられます。

連絡先 & 献金送金先
特定のミニストリー、プロジェクト、宣教地、宣教師のための支援金を送って下さる方は、振込用紙の通信欄に送金内容をご明記の上、OM日本の口座にご送金くださいますよう、お願いいたします。
www.omjapan.org/give
郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM 日本事務局」



ミャンマー特集

日本人OM宣教師のI.N.*さんは、2013年よりミャンマーにて活動しておられます。凄まじい勢いで近代化、貧富の差が広がるミャンマー国内の情勢の中、全身全霊を持って使えるI.N.さんからの報告です。

*セキュリティ上、実名をひかえさせていただきます

ミャンマーのために全身全霊を

ミャンマーの現状

近代化の波
私の住んでいるヤンゴンでは地方から夢を掲げてやってくる若者の活気と共に凄まじい勢いで近代化が加速していますが、それに伴うインフラ整備が追いついていないというのが現状です。それでも少しずつですが努力のかけらを見せようと数年前にヤンゴンに新しい空港を完成させ、交通渋滞を緩和するために立体交差点が建設されたり、新しい路線バスを整備したりと努力を続けています。

貧富の差
そして近年感じることは物価が高騰したことです。特に食料品や不動産の価格上昇は貧困層をさらに苦しめ、貧富の差は広がるばかりです。その一方、ヤンゴン郊外や農村部では高齢化が進み、100年前から時間が止まったような生活を今でも続けています。教育も医療も全ての面で都会に比べて不便をよぎなくさせているのが現状ですが、それでも人々はそれが当たり前のようにのんびりと平和に暮らしているのを見ると「素朴の幸せ」を感じます。

ロンピングヤ難民問題

また、日本でもよく聞かれるのはロンピングヤ族とミャンマー人の間の争いの問題です。違う州に住む人々にとっては他人事のように考えているのか、武力勢力を恐れているのか、理由は定かではありませんが、この話題を口にする人や報道はありません。いずれにせよ一筋縄ではいかない深い歴史と政治事情を含んだ問題です。

捧げよう

OM日本事務局ではロンピングヤ難民支援への献金を受け付けています。

救援活動の募金
郵便振替口座 02100 - 0 - 24998
加入者名「OM日本事務局」



試練、実り、信頼関係

2013年9月から始まった私の献身への旅は早いもので5年が過ぎました。1期目(2013-2016年)の働きはとにかく環境に慣れ、働きを通して献身者としての自覚を養うことが第一の目的であったと思います。沢山の試練を経験した中で得られた神様への信頼と癒しは大きな恵みとなりました。そして2016年から始まった2期目の働きは少し慣れてきた事と素晴らしい仲間が与えられた事によりとても幸せな2年半であったように思います。勿論苦労もありましたが、仲間と励ましあいながら楽しく共に働く喜びを経験した実りある期間となりました。

強い信頼関係、ライフグループ

英語を教える働きをする中で特に仲良くなった生徒さんたちと「ライフグループ」を始めました。この集まりは、なかなか人に言えない悩みや苦しみ、答えを出すのに難しい問題をみんなで話し合うという目的で始まりました。週に一度7名ほどの生徒さんたちが集ってくれまし



たが、最初はみんな緊張してお互い目を合わせて話ができなかったのに、私が帰国する頃にはお互いを家族のような存在として愛し、信頼し合うようになりました。私はこのグループの集まりを楽しみにしており、いつも問題を提議する中で神様の愛と真実を話しました。地元教会とも協力して様々な集いに誘い、参加してくれるようになりました。信仰へと導かれた方はまだいませんが、強い信頼関係と友情を築けたのは確かです。その中で救いに導かれるように続けて働きかけていきたいと思います。

「私は信仰を実行に移していきたいと思っています。主は私の弱さを含めて全てを知っており、私の力量も賜物もご存知だから、これから遭遇する試練も、私が耐えることのできない試練ではないと信じています」

キリストにある兄弟姉妹たち

地元ミャンマーの兄弟姉妹たちがインターンとして働いたり、幼稚園で働く姉妹方と良い関係を築き、教育や宣教のための実用的な知識を共に学びました。更に、短期宣教チームのコーディネーターとして日本を含む海外からの訪問者のスケジュール管理やコミュニケーションに関わっていました。色々な国から訪れる素晴らしい兄弟姉妹に私が勇気づけられたのを覚えています。様々な働きの中で、神様は私を教え、励まし、今後の活動のために備えをして下さったのだと心から感謝して終えることのできた2期目の働きでした。

ミャンマーの兄弟姉妹の課題

ミャンマーは現在8%程のクリスチャ

ン人口があると言われていますが、過去に宣教師によって栄えたチン族とカチン族においては人口の約95%以上がクリスチャンドと言われています。彼らの多くは献身者となることを志し、事実大都市には沢山の神学校や教会が存在します。しかし、いくつかの教会には献身者ばかりが多くなることにより分派や運営困難といった問題も見られます。ミャンマー人は勉強熱心なのでより沢山の事を学ぶことに没頭しますが、信仰を行動に移し計画を立てることが苦手なところがあります。勿論学ぶことは大切ですし、より多くの知識は信仰の糧となるでしょう。しかし沢山のクリスチャンがいる大都市だけで福音が語られ成長すればよいと考えるのなら、本当の意味で信仰を全うするとは言えないのではないでしょうか。農村部やクリスチャン州以外の場所に行ってキリストの真実を語らないのであればミャンマー国全体の救いは得られないと思います。なぜなら、海外宣教師がミャンマー国内でできることには限界があり(地理的・言語的・文化的・ビザ取得)、国全体を霊的に動かすためには、ミャンマーの方々の働きが必要不可欠だからです。

今後のビジョン

私自身も今後の活動拠点をヤンゴン郊外や農村部に移していきたいと考えています。その目標のためには語学の上達は勿論、物理的な環境、つまり活動場所、住居、共に働く仲間を整えられなければなりません。まだ動き出したばかりですが、チームメンバーともよく話し合いをしたうえで、主の御心ならば道は開かれると信じています。ピリピの2:13「神は、みこころのままに、あなた



がたのうちに働いて志を立てさせ、事をおこなわせてくださるのです。」にあるように、私は信仰を実行に移していきたいと思っています。主は私の弱さを含めて全てを知っており、私の力量も賜物もご存知だから、これから遭遇する試練も、私が耐えることのできない試練ではないと信じています。これからも、主への信頼関係、またキリストにある兄弟姉妹との信頼関係の中で、私はミャンマーのために全身全霊を捧げていきたいと考えています。これからも皆さんの温かい励ましと力強いお祈りの支えをよろしくお願いいたします。 

上：スラム地区と人力三輪車
下：スラム地区に住む子供たち



ミャンマーについて



正式名：ミャンマー連邦共和国
公用語：ビルマ語
首都：ネピドー
(2006年まではヤンゴン)
最大の都市：ヤンゴン
面積：676,578km²
人口(2014年)：51,419,420人
通貨：チャット
ASEAN加盟国

ミャンマー連邦共和国、通称ミャンマー/ビルマは、東南アジアのインドシナ半島西部に位置する共和制国家。イギリスから独立した1948年から1989年までの国名はビルマ連邦。

多民族国家で、人口の6割をビルマ族が占める。他に、カレン族、カチン族、カヤー族、ラカイン族、チン族、モン族、ビルマ族、シャン族、北東部に中国系のコーカン族などの少数民族がおり、独自の言語を持つ民族も多い。

宗教*	人口の割合	年間成長率
仏教	80%	不明
クリスチャン	8.98%	2.7%
福音派	5%	2.5%

*Source: Operation World

残された時間を主の御用の為に用いよう

今村 昭子
2018年ミャンマー孤児院ツアーに参加

2018年3月末、私は40年勤務した職場を4年繰り上げて早期退職しました。残された人生をどのように生きるのか、社会とどう関わっていくのかを考えました。そんななかで、「残された時間を主の御用の為に用いよう、これからは新しい事にチャレンジしていこう」との思いが与えられ、以前から色々な方々から聞いていたミャンマーツアーに参加しました。

出発前は、食も文化も言葉も違う東南アジアの孤児院訪問、それぞれの賜物を出し合い自分たちでプログラムを決めて進行するなど、多少の緊張と不安が入り混じった中での出発でした。

現地での活動は、主に孤児院と幼稚園の訪問でした。はじめは慣れないためスムーズにいかない事もありましたが、日に日にチームワークも良くなり、緊張がとけていきました。気が付けば、ゲームや折り紙、ハーモニカ演奏、賛美や踊り、紙芝居、救いの証を奉仕者自らが喜び楽しんでいました。私は、勤務した歯学部の方々から沢山の歯ブラシの献品があったので、それを用いて歯磨き指導や歯の健康について、お話しさせて頂きました。現地の皆様に喜んで頂き、嬉しかったです。

また、ヤンゴンから10時間離れた山奥に入り、家庭訪問や礼拝を体験しました。途中、車のアクシデントで困っていた所に、クリスチャンの運転手の助けがあったり、代



OM船「ロゴス・ホープ号」

ロゴス・ホープ号

世界中 船 1年間/2年間
① ロゴス・ホープ号で、様々な国を航海するボランティアのクルーとしてミニストリーに参加します。人生を変えるようなアドベンチャーがあなたを待っています。OMの公式なMDTプログラムではありませんが、ロゴス・ホープ号船上でも、それぞれの部署での職業訓練の他に、様々な形式の宣教、弟子訓練が提供されています。

祈りと報告

OM日本から9月に額田潤さんが、ロゴス・ホープ号に乗船しました。早く船の生活に慣れるように、お祈りください。また、米澤恵美さんが2年間の任期を終えて、無事に帰国しました。お祈りありがとうございました。



車の運転手が訪問地出身者で道を熟知している方だったりと、困難な状況の中で、主の確かな助けが与えられことを体験し、主をほめたたえました。

現地で働くOM宣教師のI.N.さんとの出会いは、私に大きな影響を与えました。I.N.宣教師の熱心にご奉仕されるお姿や、私達に対するご配慮、ミャンマーの人々に対する熱い救世の思い、宣教の熱心に触れ、「私も一人のキリスト者として、いまだ福音の届いていない地域で人々に福音を届けたい」との思いが強くなりました。

その後I.N.宣教師が教会訪問のため日本に帰国され、自分の所属教会の集会に来ていただきました。その時のお話の中で「皆さんも、一人一人、宣教師です」と語られ、私も「小さな器ですが、宣教の働き的一端を担うために用いて下さい」との思いが与えられました。

今回、このツアーに参加して、実際に自分の目で見、聞き、味わい、触れ合い、体験しなければわからない世界があることを教えられました。人生の様々な出来事や、世界で起きている事柄を経験せず、人生を終えるのは、とてももったいないです。皆さんにもぜひ、この素晴らしい宣教の経験を味わって頂きたいと思いました。ミャンマーで出会った、多くの主にある兄弟との素晴らしい出会いに感謝しています。 

